



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

北大Ambitious債 サステナビリティ/ブルーボンド レポート2025

2025年12月



「北大Ambitious債」の概要

目次

発行目的

2023年7月、本学は社会と世界にとってなくてはならない存在であり続けることを目指し、中期的ビジョン「HU VISION 2030」を公表しました。

この「HU VISION 2030」の実現に向けた事業（北海道大学Excellence and Extension事業）に投資するため、2024年11月、国立大学法人で初となる、ソーシャル性・グリーン性に加えてブルーの要素を併せ持つ債券「サステナビリティ/ブルーボンド」を発行しました。

同事業では、北海道大学のポテンシャルを最大限発揮するため、学生や教職員、地域や産業界といったあらゆるプレーヤーが共創する「イノベーション・コモンズ」を整備することを計画しています。さらに、そこで繰り広げられる多様な交流や異分野融合、社会とのコラボレーションを促すために、学内に点在する高度専門人材の集結や、専属コーディネーターの配置といったガバナンス強化も構想しています。

これにより、従来の大学関係者だけでなく、社会の多様なステークホルダーの皆さまと共創しながら、本学の更なる成長と社会課題の解決を加速度的に進めていきます。

債券概要

項目	概要
債券の名称	第1回国立大学法人北海道大学債券 (サステナビリティ/ブルーボンド、愛称「北大Ambitious債」)
年限	20年
発行額	33.7億円
利率	年1.942%
発行日	2024年（令和6年）11月29日（金）
償還日	2044年（令和26年）11月29日（火）
格付	AA+（株式会社格付投資情報センター（R&I）） AAA（株式会社日本格付研究所（JCR））
第三者評価機関	株式会社格付投資情報センター（R&I）
サステナビリティ/ブルーボンド・フレームワーク評価	フレームワークに定める「調達資金の使途」「プロジェクトの評価と選定のプロセス」「調達資金の管理」「レポート」が、下記の原則・ガイドラインに適合している旨のセカンドオピニオンを取得 ○グリーンボンド原則（2021、ICMA） ○ソーシャルボンド原則（2023、ICMA） ○サステナビリティボンド・ガイドライン（2021、ICMA） ○グリーンボンドガイドライン（2022、環境省） ○ソーシャルボンドガイドライン（2021、金融庁） ○持続可能なブルーエコノミーの資金調達に向けた債券－実務者ガイド（SBEガイド）（ICMA等） ※ ICMA…国際資本市場協会



学部・研究所等

※ 2025年5月1日現在



12 学部



21 学院等



5 附置研究所

- 低温科学研究所
- 電子科学研究所
- 遺伝子病制御研究所

- 触媒科学研究所
- 人獣共通感染症国際共同研究所

2 研究センター

- スラブ・ユーラシア研究センター
- 情報基盤センター

10 学内共同研究施設

- アイソトープ総合センター
- 量子集積エレクトロニクス研究センター
- 北方生物圏フィールド科学センター
- 観光学高等研究センター
- アイヌ・先住民研究センター
- 社会科学実験研究センター
- 環境健康科学研究教育センター
- 北極域研究センター
- 広域複合災害研究センター
- One Healthリサーチセンター

4 学内共同教育施設

- 脳科学研究教育センター
- 外国語教育センター
- 数理・データサイエンス教育研究センター
- 人間知・脳・AI研究教育センター

5 特定業務施設

- 総合博物館
- 大学文書館
- 学生相談総合センター
- 保健センター
- 埋蔵文化財調査センター

2 その他

- 附属図書館
- 国際連携研究教育局



キャンパス

2024年の実績値
※は2025年7月現在



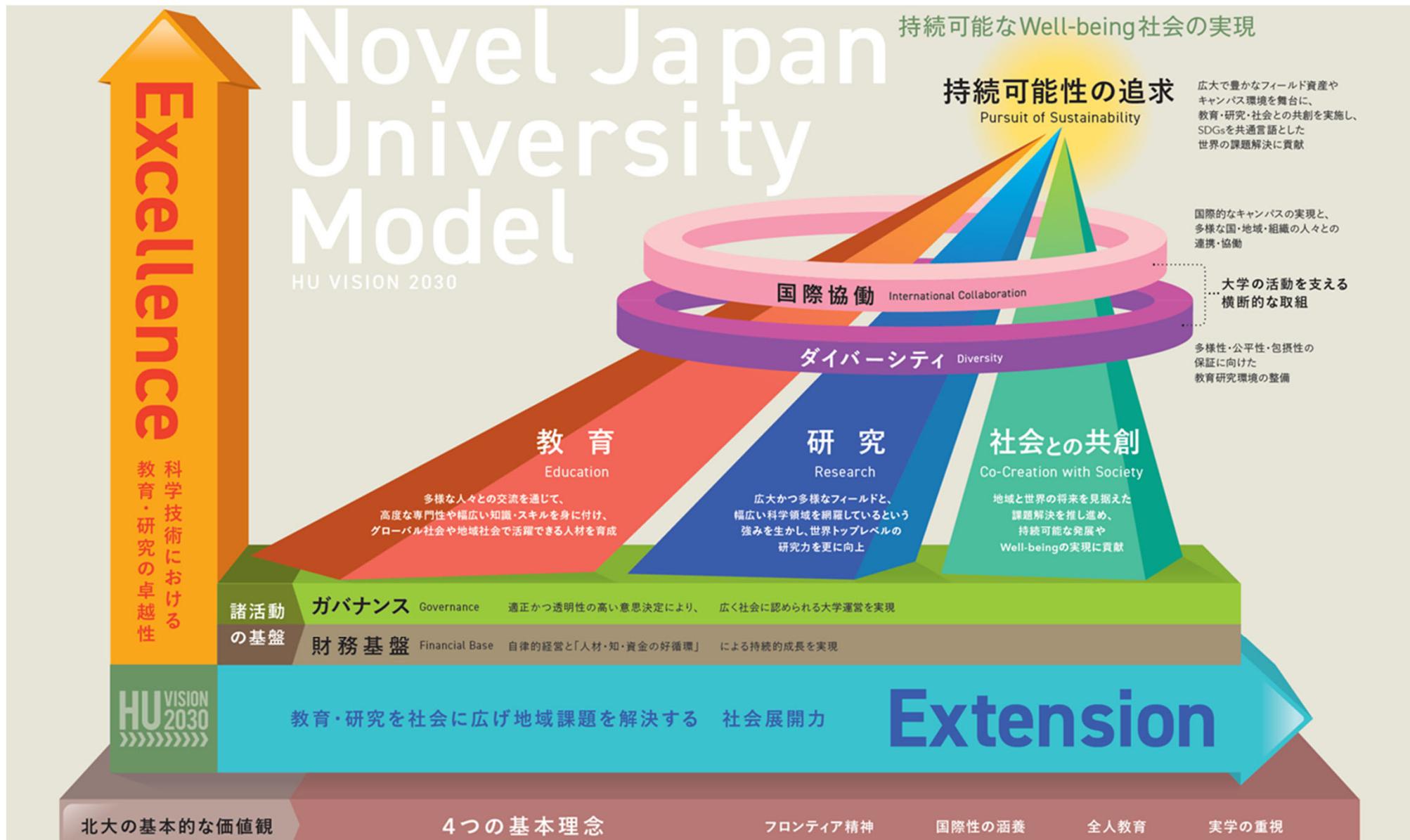
学生・教職員

※ 2025年5月1日現在



学部生	正規履修生	11,365 人	11,535 人
	非正規生	170 人	
大学院生	修士課程	3,599 人	6,650 人
	専門職学位課程	237 人	
研究所等	博士(後期)課程	2,569 人	159 人
	非正規生	245 人	
	非正規生	245 人	18,344 人
役員		11 人	
教員		1,960 人	
URA職		21 人	
専門職		35 人	
事務職員		953 人	
技術職員		966 人	
			3,946 人

2023年7月、北海道大学は新たな中期的ビジョン「HU VISION 2030」を公表しました。このビジョンでは、科学技術における教育・研究の卓越性“Excellence”と、教育・研究を社会に広げ地域課題を解決する社会展開力“Extension”的2つを原動力とし、大学自身のイノベーションを促進しながら、地域と世界の課題解決に貢献し続けるための指針を示しています。



「HU VISION 2030」の実現により、世界の課題解決から大きな社会的インパクトを生み出す新しい日本型の大学モデル 「Novel Japan University Model」(※) の確立を目指しています

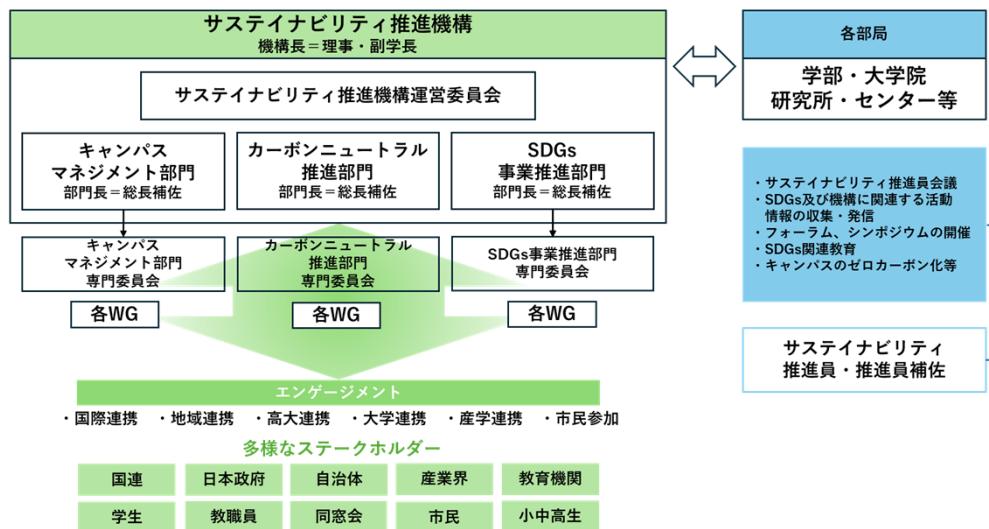
(※) 国際社会・地域社会との連携を格段に強化し、社会的インパクト・イノベーションを生み出す新しい公共財であり、経営体としての日本の基幹総合大学を意味する



サステイナビリティ推進機構

北海道大学サステイナビリティ推進機構は、持続可能な社会の構築に資する教育、研究、社会連携、及びサステナブルキャンパス構築並びにカーボンニュートラルを推進するためのプラットフォームです。SDGsに関する教育、研究、社会連携、広報を推進する「SDGs事業推進部門」、サステナブルキャンパス構築を推進する「キャンパスマネジメント部門」に加え、2024年6月からは「カーボンニュートラル推進部門」を新設し、3部門が一体となってグリーン・スマート・サステナブルキャンパスの実現を目指します。

また、サステイナビリティ推進機構と各部局等が連携して活動するため、各部局等にサステイナビリティ推進員及び推進員補佐を配置し、サステイナビリティ教育等の推進に関する活動について意見交換や連絡調整を行う推進員会議を実施しています。



国内大学として初めてCDPに回答書を提出



- CDPとは、投資家や企業、国家、地域、都市が自らの環境影響を管理するためのグローバルな情報開示システムを運営する、英国の国際環境NGO
- 2022年・2023年・2024年に気候変動のリスク・影響への体制構築や取組が進んでいることを示す「Bスコア」を獲得

本学キャンパスが「自然共生サイト」に認定

- 雨龍研究林と札幌キャンパスが生物多様性の保全（ネイチャーポジティブ）に貢献している区域として、環境省より「自然共生サイト」に認定（2023年度）
- 鳥獣保護区や工作物が集積する範囲を除いた区域がOECM国際データベース（※1）に登録され、30by30（※2）の目標達成に直接貢献



- (※1)Other Effective area-based Conservation Measuresの略。
国立公園などの保護地域以外で生物多様性保全に資する地域。
(※2) 2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする国際的な目標



SDGsに関する評価

- 「THEインパクトランキング2025」の総合ランキングで世界2,318大学中同率44位・6年連続国内1位を獲得
- 「THEインパクトランキング2022」では、SDGs17目標の個別ランキングのうち「2.飢餓をゼロに」で世界1位を獲得

1. 調達資金の使途

ソーシャルプロジェクト

事業区分 必要不可欠なサービスへのアクセス

適格要件

以下2つの要件を満たすプロジェクト

◆国立大学法人法施行令第八条第四号（国立大学又は大学共同利用機関における先端的な教育研究の用に供するために行う土地の取得等）に該当する事業

◆「HU VISION 2030」で示された卓越した教育・研究"Excellence"と社会展開"Extension"のシナジーにより大学の成長を加速し、sustainableなWell-being社会の実現を目指す事業のうち、本学が特定する社会課題の解決に貢献する事業

グリーンプロジェクト

事業区分 再生可能エネルギー、エネルギー効率、グリーンビルディング

適格要件

以下2つの要件を満たすプロジェクト

◆国立大学法人法施行令第八条第四号（国立大学又は大学共同利用機関における先端的な教育研究の用に供するために行う土地の取得等）に該当する事業

◆「HU VISION 2030」で示された卓越した教育・研究"Excellence"と社会展開"Extension"のシナジーにより大学の成長を加速し、sustainableなWell-being社会の実現を目指す事業のうち、本学が特定する社会課題の解決に貢献する事業であり、以下の①から③を取得済または取得予定の事業（付随する設備を含む）

①キャンパス内で再生可能エネルギー（太陽光、太陽熱、地熱、風力等のいずれか）を活用するための施設、設備の導入

②ZEB基準相当または省エネ性能表示制度に基づく評価（※）を取得する建物の建設・取得

（※）ZEB認証におけるZEB、Nearly ZEB、ZEB ready、ZEB Orientedのいずれか

③以下の環境認証のいずれかを取得済または取得予定の建物の建設・取得

・CASBEE評価認証：SランクまたはAランク

・LEED認証：Platinum、GoldまたはSilver

・DBJ Green Building認証：5つ星、4つ星または3つ星

ブループロジェクト

事業区分 持続可能な海洋バリューチェーン
(生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理)

適格要件

以下3つの要件を満たすプロジェクト

◆国立大学法人法施行令第八条第四号（国立大学又は大学共同利用機関における先端的な教育研究の用に供するために行う土地の取得等）に該当する事業

◆「HU VISION 2030」で示された卓越した教育・研究"Excellence"と社会展開"Extension"のシナジーにより大学の成長を加速し、sustainableなWell-being社会の実現を目指す事業のうち、本学が特定する社会課題の解決に貢献する事業

◆持続可能な漁業及び増養殖業に関する実験や研究を行う施設や設備、機材の整備

2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

- 本フレームワークに基づく債券の資金使途となるプロジェクトは、「HU VISION 2030」で示された卓越した教育・研究"Excellence"と社会展開"Extension"のシナジーにより大学の成長を加速し、sustainableなWell-being社会の実現を目指す事業、かつ本学が特定する社会課題の解決に貢献する事業等であることを確認の上、経営協議会での審議を経て、役員会で決定します。
- 対象プロジェクトの選定にあたって、想定される環境及び社会への負の影響への対処として、プロジェクトを実施する自治体における環境関連法令等を遵守し、必要に応じて環境への影響調査、周辺住民への十分な説明や労働者の適切な安全管理が実施されているかどうか確認します。
- 教育や研究活動等の実施に際しては、教職員、学生、被験者等の個人データの管理、有害物質の管理、研究プロセスにおける廃棄物の管理等を適切に実施していきます。

3. 調達資金の管理

- 本フレームワークに基づいて発行する債券によって調達した資金は、北海道大学の財務会計システムにより入出金管理を行います。入出金については財務担当者がシステムに入力し、財務担当責任者が承認する体制となっています。また、本フレームワークに基づいて発行する債券によって調達した資金の充当状況に係る帳簿は、財務会計システムにより記録した上で償還まで保管する予定です。
- 北海道大学においては、月次の財務状況を明らかにする書類を作成し、財務担当責任者から財務担当理事に適宜提出しています。加えて、本フレームワークに基づいて発行する債券の入出金を含む財務状況全般について、年に一度、監査法人による会計監査を受けることとなっています。
- 債券の資金使途となるプロジェクトへの充当時期の遅れ等により調達資金の未充当期間が発生する場合、未充当金は現金または現金同等物、短期金融資産などの安全性、流動性の高い資産により管理・運用する予定です。

4. レポート

（1）資金の充当に係るレポート

北海道大学は、調達資金が全額充当されるまでの間、年次でウェブサイトまたは統合報告書等にて、調達資金の充当状況に関する以下の項目について実務上可能な範囲で開示する予定です。また、調達資金の充当計画に大きな影響を及ぼす状況の変化が生じた場合は、適時に開示する予定です。

① 充当したプロジェクトの概要

② 各プロジェクトにおける充当金額

③ 未充当額

（2）インパクト・レポート

北海道大学は、本フレームワークに基づいて発行する債券の残高がある限り、年次でウェブサイトまたは統合報告書等にて、以下の項目について実務上可能な範囲で開示する予定です。

区分

ソーシャルプロジェクト

グリーンプロジェクト

ブループロジェクト

開示内容

<アウトプット>

- ◆対象となるプロジェクトにおいて取得した土地、設置・整備した施設や設備の概要等
- ◆ソーシャルプロジェクトに関与する研究者数及び学生数等

◆発電設備における発電容量

- ◆評価・認証等の取得状況
- ◆CO2排出削減量

- ◆施設や設備、機材の整備概要
- ◆北海道大学における研究概要及び成果
- ◆研究論文数

<アウトカム>

- ◆ソーシャルプロジェクトに係る学術論文数
- ◆教育・研究を通じた社会的成果の事例

<インパクト>

- ◆「持続可能なWell-being社会」の実現

資金の充当状況

「HU VISION 2030」では、北海道大学が150年の歴史の中で培ってきた比類なきアイデンティティを大きく飛躍させ、“Excellence”と“Extension”の結合によるエコシステムを創り出し、大きな社会的インパクトを生み出す新しい日本型の大学モデルを目指しています。

この新しい大学モデルの確立には、北海道大学のポテンシャルを最大限発揮する環境の構築が必要であり、その一方策として、**学生や教職員、地域や産業界といったあらゆるプレーヤーが共創する拠点を整備**するとともに、これを契機として北海道大学における「人材・知・資金の好循環」を始動させ、それを円滑に促すことによる持続的な成長を実現します。本拠点では、社会課題・環境問題の解決に貢献する最先端研究を推進・展開することで、sustainableなWell-being社会の実現を目指します。

大学債発行によって調達した資金（33.7億円）は、この新たな共創拠点の整備・構築に充当していきます。



※外観イメージは2024年11月時点のもの

スケジュール（予定）

年度	計画
2024(R6)年度	基本設計、地歴調査
2025(R7)年度	新棟実施設計、地盤調査
2026(R8)年度	解体設計、施工発注（施工開始）
2027(R9)年度	施工期間
2028(R10)年度	竣工、施設運用

インパクト・レポート

（事業開始後に開示予定）

ソーシャルプロジェクト

アウトプット

- ▶ 北海道大学Excellence and Extension事業において整備した施設
- ▶ 本事業に関する研究者、学生数等

アウトカム

- ▶ 本事業に関する学術論文数
- ▶ 社会的成果の事例
 - 例）・企業や地域社会とのネットワーク構築、産学共創事例
 - ・共同研究の相手方（企業等）の誘致

インパクト

- ▶ 「持続可能なWell-being社会」の実現

グリーンプロジェクト

- ▶ 発電設備における発電容量
- ▶ 評価・認証等の取得状況
- ▶ CO2排出削減量

ブループロジェクト

- ▶ 北海道大学Excellence and Extension事業において整備した施設
- ▶ 本事業に関する研究概要及び成果、研究論文数等